



おでんとまがま

林田源二郎

私の紹介したいのはおでん屋です。

そこは狭き茶屋商店街をまっすぐ行って、
飛田本通りへ行く途中にある大通りを渡って、
すぐ左へ行ったらふみきりのそばにあるおかし
屋とおでん屋をいっしょにした店がそうぞうです。
ここは私が四十年前、益へ来た頃、朝八時頃
から、寝ばけまなこをこすりこすり、食いに
いったなじみのところですよ。

この店は愛ソウのいいおじさんとおばさん
そしてカワイイネエちゃんやんがやっていて、店
の前を通る人には、いつもあいさつをかわし
ています。入口に大きな「なべ」いっばいに
おでんが入っていており、いいにおいをさせてい
る。店の中は、テーブルが一つあるだけ。精
一杯お客をつめても六人が限度でよく立って

ぼい、なんぞそうなのかというところ、スジ肉をよ
く食う。私なんかも好きな方だけと飯らは口
をおちよぼ口にしてハンカチをあて、ドラ声
で話しながらよく食うし、よく気をつけて
くれる。

前日一人一人で食っているとおかまさんが
三人入ってきて、いすにこしかけその中の一
人が「ゆのみ」をだして茶を入れてやってい
た。その時、私は茶も入れずにおったので、
その私にも茶を入れてやさしく笑いかけてく
れたりした。だがこの西のいいところはそう
いう昔へ戦後の動乱やみ市的気分、のままの
駄菓子屋で、気のいいお客の身になって商売
するおじさんとおばさんがいるからやと思う。
あとつけ加えると、ここのおにぎりはい
米をつかっけていて塩味も丁度よくて実にうま
いです。

タコ下ソセ〇シノ梅やきすじ肉卵竹子〇〇ノ
ちくわいも平天ゴボ天あつあつ竹マホゴミン
チコンニヤク三〇ノにぎりめし一皿四ツハ〇
ノビール二五〇

たべたものでした。

何故立ってまで食べるのかというと、一口
にいった味がいいわけですよ。それに、その店
の感じとびったりあっている。十坪ぐらい変
ってないと思われる家のつくりと、そうさん
かけた古い机、いすそして駄菓子屋をやっ
ている。

いまの店は合理的に、しかも機能的になり
すぎて、めし食って、とっても何んか味がない。
食わされるといふ感じやけども、この店は
何んというか味がある。おでんの味はもちろ
ん店の味もある。それにまたお客にも味があ
る。私がかつてにおもうわけやけども、おの
まさんというのは、あぶらぎった人が多いい
やないかと思う。ものすごく男くさくてな。

